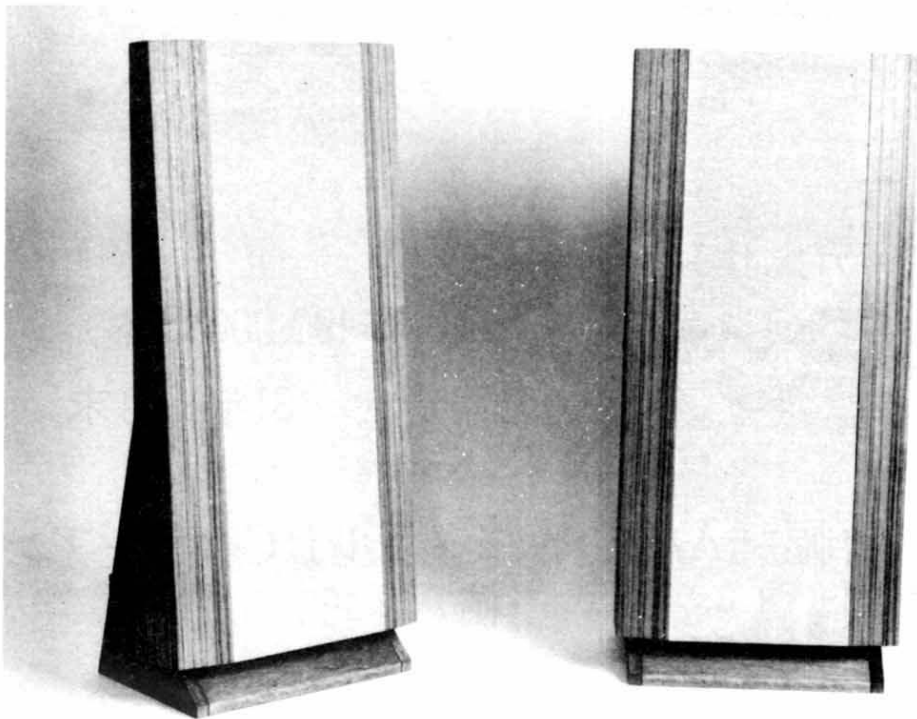


フルレンジ型コンデンサースピーカー ELS-F81



ELS-F81フルレンジ型コンデンサースピーカーシステムの開発にあたって

大音量ひずみとPA 感覚からの脱出

再生のむずかしさ、つまりスピーカーによる音楽鑑賞のむずかしさは音量設定の基準がないということでしょう。生演奏の音量を再生時に確保することは不可能と知りつつも、なんとか実存感を得ようとする。再生テクニックのカギは再生音場における音量設定といえるのです。再生時に起るひずみは、主に再生システムの許容性（リニアリティ）を越えた使いかたによるものです。必要以上の大音量は当然、ひずみを倍加させるでしょう。再生音楽の魅力のひとつは、もともとミニチュア化された精妙な奥深さで、聴く人の想像力をこれ以上刺激することはないとさえ思われます。いっぽう音楽会などナマの世界では、むしろ視覚に依存した臨場感覚が聴く人の感性を満足させているといえるかもしれません。それと同時にPAによる音量と音質に知らず知らずのうちに聴覚がならされていることにハッとするはずです。フルレンジ型コンデンサースピーカーシステムの開発には、こうした大音量志向とPA感覚にマヒされた幻聴の世界から端正で鮮やかな音楽による心の世界に復帰することを目指しています。再生レベルの設定は、和室6～8畳でいどの音場において通常の会話を可能にしながらの音楽鑑賞に中心をおいています。

スピーカーの原点—ワンユニットフルレンジスピーカー

「スピーカーはワンユニットフルレンジに始まり、ワンユニットフルレンジに行き着く」と言われるほど、ワンユニットフルレンジスピーカーは定位、音域バランスの自然さに優れています。ELS-F81に使用されている発音ユニットは785(H)×210(W)mmという大型ユニットのみで、しかも全面駆動方式のコンデンサー型ですから低域から高域までスムーズにつながり、再生音はまさにワンユニットフルレンジの音そのものです。その定位とバランスの良さは、これまで不必要なまでに広帯域化するために犠牲となっていた音楽再生の原点にたち返らせてくれます。その上、コンデンサー型独特の中高域の繊細さは、ダイナミックスピーカーでは決して再生できないものです。当然ながら、ネットワークによる音質劣化がないという利点も加わります。

聴取範囲を拡大する角度可変型

従来のスピーカーは、たとえばツイーターの位置が耳の高さになるようにセッティングしなければならないというような制約を受けますが、ELS-F81はバツフル板の傾きが上下方向に自由に換えられるように設計されています。これによって聴取位置での周波数特性がフラットになるように調整できます。

4畳半でも使用可能な小型サイズ

コンデンサースピーカーは構造上、大型のものになりがちですが、ELS-F81は扱いやすい小型サイズを目標に開発されました。1020(H)×450(W)×300(D)mmという大きさは、扱い易さと音質の最適妥協点と言えます。ELS-F81は、サイズと価格の点でコンデンサースピーカーを身近なものにした画期的製品です。